

— 動き出したダイバーシティの取組み —

「取材協力」ANAセールス株式会社(東京都中央区) 新しい働き方の推進で人生を豊かに

「退社時間宣言プレート」を導入

ANAセールスは今年10月から、社員自身が自らの退社時間を設定して社内で開示する「退社時間宣言プレート」を導入しました。

これは、①退社時間を周囲に宣言すること、就業時間を意識した効率的な働き方を指すと同時に、②業務(ワーク)と就業後の時間(ライフ)のバランスを自分自身でマネジメントすることを目的とするものです。

同社では、全社的に新しい働き方でワーク・ライフ・バランスを推進する施策に取り組み、今回の「退社時間宣言プレート」の導入もその一環となる



社員個々のデスク周りに設置されている退社時間宣言プレート

ものです。

社員に対して「ANAセールスでの勤務業務と通じ、また、勤務以外の自分の時間を活用して自らの成長につなげ、自らの人生を豊かにしていきますよー」と呼びかけています。

ANAセールスが取り組むワーク・ライフ・バランスと、多様性を尊重するダイバーシティとは、密接な関係にあると言われています。一人一人のライフスタイルや価値観にあった働き方を実現することとは、多様性を尊重する考え方でもあるからです。

同社総務・人事部人事課の小堺信彦主席部員によると、ANAセールスは昨年8月、新しい働き方でワーク・ライフ・バランスを推進する方針を「労使共同宣言」として発表し、労使一体となって「新しい働き方」の創造と「ワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組んでいくことの重要性を確認。



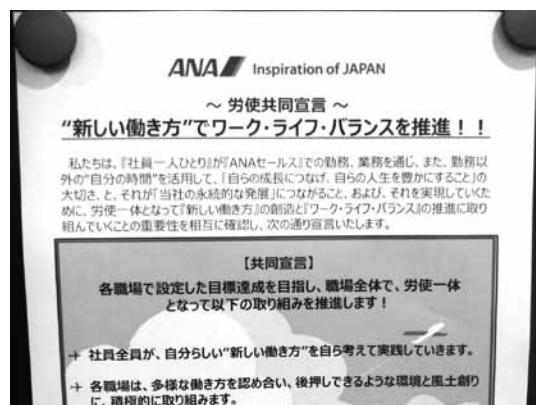
小堺信彦主席部員「社員の意識も少しずつ変化していると感じます」

共同宣言では、「各職場は多様な働き方を認め合い、後押しできるような環境と風土創りに、積極的に取り組みます」「各職場と社員は、自分の時間を持つように、自部署の／自分の業務の進め方を見直し、工夫し、効率的な手法を考えて実践していきます」などと謳われています。

「テレワーク」もトライアル実施

ANAセールスは「労使共同宣言」から1年目に当たる今年8月、NPO法人ファザリング・ジャパンが設立・運営する「イクボス企業同盟」に加盟しました。「イクボス」とは、職場で共に働く部下やスタッフのワーク・ライフ・バランスを考え、部下やスタッフのキャリアと人生を応援しながら、組織の業績でも結果を出し、自らも仕事と私生活を兼ねることが出来る上司(経営者・管理職)です。ANAグループでは、全日空が「イクボス企業同盟」の設立メンバーとして加盟しており、ANAセールスはグループ内で2番目、旅行会社としては初めてメンバーに名前を連ねることになりました。

小堺主席部員は、「ワーク・ライフ・バランスの推進において「イクボス」のマイนด์が必要不可欠であり、今回の加盟によつて、有言実行の意識が社員の背中を押すようにしたい」と説明。同社は昨年8月に「共同宣言」を発表する以前から、フレックスタイムや短時間勤



ANA セールスの社内に掲示されている「労使共同宣言」

務などの制度を導入してきており、小堺主席部員は、「昨年から取り組みによつて、定量的に見える部分では総実労働時間や時間外労働時間も減少する傾向が現れており、社員個々人の意識も少しずつ変わってきていることが感じられる」と説明しています。

さらに、ANAセールスでは、今年11月から2カ月間にわたって「テレワーク」のトライアルを実施しており、在宅や外出先など会社以外の場所で仕事をするこにより効率的に時間を活用できる制度についても検証中。「働く場所についてより柔軟な仕組みを導入した場合、どういったメリットやデメリットがあるのかを見極めた上で、ワーク・ライフ・バランス推進の施策として制度化を検討したい」(小堺主席部員)考えです。